

平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立八雲中学校)

平成31年2月15日

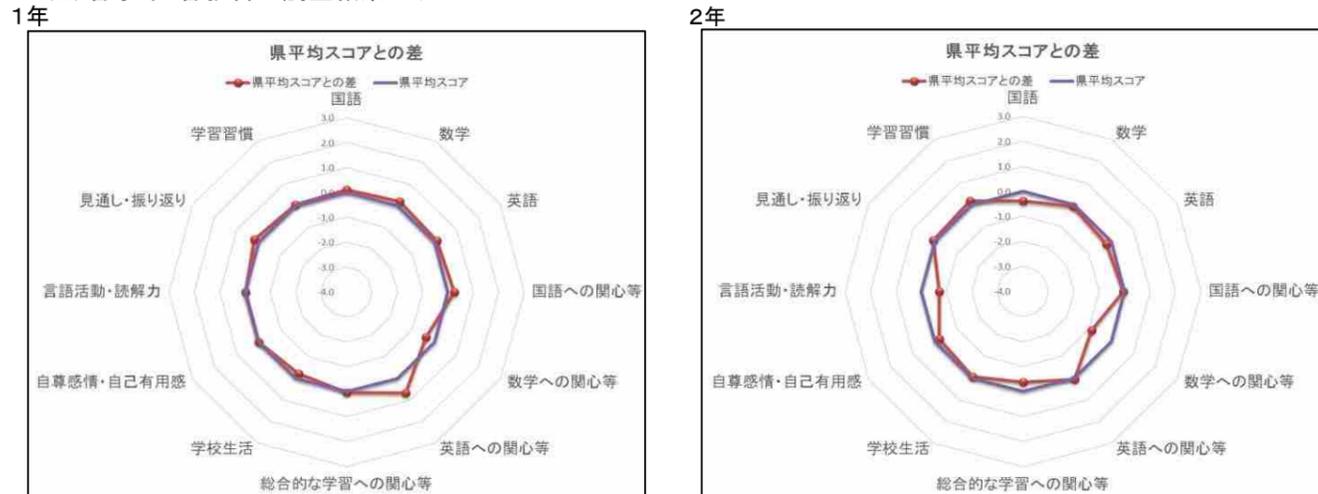
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	国語	○単語の分類を理解することができる。 ○話す・聞くの領域において、正答率が高い。 ●常用漢字(中一相当)、小学校配当漢字の無回答・誤答が多い。	・漢字の基礎力テストに向けて、漢字の練習に丁寧に取り組むよう指導する。 ・授業において漢字の学習場面を増やす。 ・文脈に即して正しく漢字を読めているか、音読時に意識させる。
	数学	○基本的な式の計算を的確に行うことができる。 ●数学に対する関心等が低い。 ●文字式を使った説明問題と関数と図形の融合問題の無解答率が高い。	・数学の学習に対する関心や意欲を高めるために、授業の導入や展開の仕方を工夫する。 ・正しい説明の仕方を读ませる指導を通して、言葉の使い方や説明の進め方を理解させ、説明を書く機会を多く設ける。 ・応用問題に挑戦する機会を増やす。
	英語	○県平均スコアと比べ、英語に対する関心が高い。 ○「聞く」「読む」「書く」の3つの領域ともバランスよく力がついている。 ●4観点のうち、「理解の能力」が他の能力に比べるとやや低い。	・「読む」領域の学習では、ある程度まとまりのある英文を読んで、要点をつかんだり概要を把握したりする機会を増やす。
2年	国語	○国語の学習について、授業の内容理解についての肯定的回答率が高い。(意識調査の結果より) ●肯定的意識は高かったが、正答率の高さには結びついていなかった。 ●書く領域において特に正答率が低く、無解答率が高い。	・学年相応の語彙を増やし、聞き取ったり思考したりする言語の力を伸ばす工夫をする。 ・書いた文章を推敲したり、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書いたりする学習場面を増やす。 ・書いたものを小グループや学級で交流し、書くことについて関心の向上を図る。
	数学	○2学期に履修した内容は比較的できている。 ●県平均スコアと比べて、学習に対する関心等はかなり低い。 ●根拠を考えたり、論理的に考え説明したりする等、数学的な考え方や見方をすることが弱く、無解答率が高い。	・学習したことを定着させるために、繰り返し練習させる。 ・文章題を読解しようとする意欲や解決しようとする意欲、説明しようとする意欲が持てるような課題を提示する。
	英語	○英語に対する関心は県平均スコアを若干上回り、昨年度よりも上昇している。 ●「書く」領域では特に、対話の流れをふまえて空欄に英文を補う形式の正答率が低い。 ●「読む」領域では、要点を読み取ったり、絵や表などの情報を整理して読み取ったりする問題の正答率が低い。	・場面設定や対話の流れを意識した「書く」ことへの指導をより意識的に取り入れていく。 ・ある程度まとまりのある英文を読んで、要点をつかんだり概要を把握したりする機会を増やす。 ・基礎基本の定着を意識した学習活動を中心におきつつ、4技能の統合的な学習活動に取り組む機会を増やしていく。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
1年	授業改善に関わる事項	○授業で自分の考えを発表したり、話し合ったりする機会が設けられている。 ●私語をして騒がしくなる場面がある。そのため、学習規律がきちんと守られていると感じている生徒の割合がやや少ない。	・授業の形は定着してきているので、より主体的な学習になるよう内容的な充実を図る。 ・学習規律について繰り返し指導する。
	家庭学習に関わる事項	○毎日熱心に家庭学習に取り組んでいる生徒が多い。 ●自分で課題を見つけて努力するような家庭学習ができていない生徒が多い。 ●携帯・スマホの使用時間が1時間を超えている生徒の割合(45.2%)が高い。	・自学の内容のチェックを丁寧にいき、個に応じた指導を繰り返し行う。 ・IT機器の使用時間が学習に与える影響などについて学ばせる。また、自分の生活をデザインし、目標に向けて実践していくことを学ばせる。 ・キャリア教育の充実を図る。
2年	授業改善に関わる事項	○3教科とも、授業の内容理解についての質問の肯定的回答率は、島根県全体のものよりも高い。 ●授業の学習規律が守られていると感じる生徒の割合が低い。 ●課題解決に向けての挑戦的活動について、十分にできていないと感じる生徒の割合が高い。	・説明や指示は短く簡潔に伝える。 ・学習規律(授業開始時に着席しているなどのルール)を徹底する。繰り返し指導していく。 ・課題解決のための学習活動にグループ学習を取り入れる。人の考えを聞いて自分の考えを広げる機会を設ける。
	家庭学習に関わる事項	○平日の家庭学習が定着している。 ○読書をするのが好きな生徒は多い。読書習慣はある。 ●家庭学習の内容は主に予習で、復習をしないので定着しない。 ●計画的にコツコツ学習することが苦手な生徒が多い。 ●知識(特に言語)の定着ができていない。	・家庭学習についての指導を、学年部で取り組んでいく。学習習慣の定着のための問題集、授業の復習内容を含む宿題等の設定。 ・提出された自学の内容確認を丁寧にいき、個に応じた指導を繰り返し行っていき。出さない生徒に対して、一緒に取り組む場を提供する。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
1年生	本校	69	43	66
	松江市	68	41	65
	島根県	67	38	64

(参考) 平均正答率

		国語	数学	英語
2年生	本校	59	39	53
	松江市	67	43	58
	島根県	65	40	57

受検者数
1年生 53 人

受検者数
2年生 57 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

